

伊勢志摩サミット三重県民会議第6回事業推進部会

事項書

日時：平成28年2月2日（火）

13:50～14:35

場所：勤労者福祉会館5階会議室

1. 開会

2. 議題

(1) 100日前ウィークイベントについて 【資料1-1、2】

(2) 新規事業について 【資料2】

(3) 開催支援 事業

○宿泊予約センターについて 【資料3-1】

○弁当供給体制の整備について 【資料3-7】

○外国語案内ボランティアの活用について 【資料3-16-2】

○第2回住民懇話会の開催について 【資料3-17】

(4) おもてなし 事業

○第2回サミットフォーラムの開催結果について 【資料3-5】

○おもてなし大作戦について 【資料3-8】

(5) 明日へつなぐ 事業

○ジュニアサミットについて 【資料3-3】

○多様な主体における国際理解・国際交流事業について 【資料3-15】

(6) 三重の発信 事業

○ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について 【資料3-9】

○プレス等を活用した情報発信の展開について 【資料3-12】

○第1回三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について
【資料3-13】

(7) その他

3. 閉会

配布資料

【資料 1-1】 100日前ウィークイベントについて

【資料 1-2】 広報全体計画について

【資料 2】 新規事業（案）について

【資料 3-1】 宿泊予約センターについて

【資料 3-2】 配偶者プログラムについて

【資料 3-3】 ジュニア・サミットについて

【資料 3-4】 シンボルマークの作成について

【資料 3-5】 第2回伊勢志摩サミットフォーラムの開催結果について

【資料 3-6】 県産食材等の利用促進に向けた取組について

【資料 3-7】 弁当供給体制の整備について

【資料 3-8】 おもてなし大作戦について

【資料 3-9】 ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

【資料 3-10】 公式ポスターの展開について

【資料 3-11】 カウントダウンボード・ノベルティを活用したPR展開について

【資料 3-12】 プレス等を活用した情報発信の展開について

【資料 3-13】 第1回三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について

【資料 3-14】 三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

【資料 3-15】 多様な主体における国際理解・国際交流事業について

【資料 3-16 - 1】 インフォメーション機能の整備について

【資料 3-16 - 2】 外国語案内ボランティアについて

【資料 3-17】 第2回住民懇話会の開催について

【資料 3-18】 各国首脳等と県民との交流について

平成28年2月2日
事業推進課

100日前ウィークイベントについて

2月16日(火)は、伊勢志摩サミット開催までちょうど100日前となります。
伊勢志摩サミット三重県民会議では、節目である2月16日を中心とする100日前ウィークに皆さんに参加いただく「おもてなし大作戦」のキックオフイベントを開催します。
また、全国的な話題性の向上を図るとともに国際的な情報発信にも取り組みます。

1 県民の皆さんの参加に向けた取組

(1)「おもてなし大作戦」キックオフイベント

サミット開催に向けて県民一人一人の皆さんにおもてなしの心を持って県全体に取り組んでいくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催します。

①日時

平成28年2月14日(日) 8時から11時45分まで

②場所

阿児ふるさと公園芝生広場:志摩市阿児アリーナ横(志摩市阿児町神明1074番地14)
(※雨天時は、隣接する志摩市立図書館のホールにてセレモニーを実施の予定です)

③主な登壇者

鈴木 英敬 三重県知事(伊勢志摩サミット三重県民会議会長)

大口 秀和 志摩市長

(伊勢志摩サミット市民会議会長・伊勢志摩サミット三重県民会議副会長)

山崎 勝也 三重県自治会連合会会長(志摩市自治会連合会会長)ほか

④内容

・キックオフセレモニー(8時～8時30分)

鈴木知事、大口志摩市長、山崎三重県自治会連合会会長をはじめ、県民、企業、団体など多様な主体が集結してキックオフ宣言を行います。サミット開催までの100日間の県民運動(おもてなし)の盛り上がりを感じさせ、県内全域にムーブメントを創出させるきっかけとなることを目指します。

また、1月26日にみえの国観光大使に就任いただいた元バドミントン選手で三重県川越町出身の小椋久美子さんが「おもてなし大使」として、2月14日に就任予定です。

・交流会等(8時30分～11時45分)

参加者へのおもてなしとして、飲食物(井村屋(株)提供のぜんざい等)のふるまいや、キックオフ記念撮影(参加者全員で横断幕を持って記念撮影)、ステージイベント等を予定。

⑤参加予定者(計1,000人程度を想定)

・伊勢志摩サミット市民会議会員(志摩市自治会関係者等)

・伊勢志摩サミット県民会議会員

・市町関係者

・クリーンアップ作戦や花いっぱい作戦への協賛、応援事業にご協力いただいている団体、企業等

⑥主催

伊勢志摩サミット三重県民会議

伊勢志摩サミット市民会議

⑦その他

三重県自治会連合会の働きかけなどにより、15市町において100日前ウィーク周辺日にクリーンアップ活動が実施される予定です。

【参考】クリーンアップ活動が実施される市町

津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、尾鷲市、亀山市、鳥羽市、志摩市、伊賀市、紀北町、木曽岬町、多気町、南伊勢町

(2) 外国語案内ボランティアへの研修開始

海外から来県する報道関係者を主な対象に、県内各地の情報発信、移動・滞在支援などを行う外国語案内ボランティアは、活動実施前に語学研修と接遇研修を受講することになっています。第1回語学研修を次のとおり開催します。

2月14日(日) 10時から15時まで 鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
(鈴鹿市南玉垣町3500-3)

2月20日(土) 10時から15時まで 伊勢観光文化会館
(伊勢市岩渕1丁目13-15)

2 国際的な情報発信に向けた取組

(1) 海外メディアによるプレスツアー

①第2回県民会議主催プレスツアー

・日時：平成28年2月17日(水)、18日(木)

・テーマ：豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業
～ニーズをつかんだアイデア豊かな水産業～

・取材先：速水林業、三重県立熊野古道センター、松本峠、花の窟神社、ビジョン早田実行委員会、尾鷲物産株式会社、株式会社ディーグリーン

②著名人招へいプレスツアー

フランスの著名シェフ及び同行する海外メディアを2月中旬に招へいします。

(2) 海外メディアでの広告展開

『NEWS WEEK』(※)に2月中旬に掲載を予定しています。

※アメリカにおいて「タイム」と並ぶ最大手週刊誌。

(3) 伊勢志摩サミット開催・ICETT設立25周年記念事業

「ASEAN環境フォーラム in 三重」

① 日時：平成28年2月12日(金) 14時30分から17時50分

② 会場：四日市都ホテル4階伊勢の間(四日市市安島1-3-38)

③ 出席者

三田 敏雄 公益財団法人国際環境技術移転センター会長
(一般社団法人中部経済連合会会長)

小林 長久 四日市市商工会議所会頭

鈴木 英敬 三重県知事(伊勢志摩サミット三重県民会議会長)

田中 俊行 四日市市長

④内容

- ・主催者挨拶
- ・ICETT（公益財団法人国際環境技術移転センター）活動紹介
- ・パネルディスカッション
テーマ：ASEAN諸国における持続可能な経済発展
パネリスト：ASEAN各国駐日大使等
コーディネーター：三重県知事 鈴木英敬
- ・環境講演会
テーマ：宇宙からの視点～生命のつながり～
講演者：毛利 衛（宇宙飛行士、日本科学未来館館長）

⑤主催：三重県、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）、四日市市

共催：伊勢志摩サミット三重県民会議

3 「三重ウィーク in 日本橋」

2月11日（木：祝）から22日（月）、東京日本橋において、記念イベント「三重ウィーク in 日本橋」を開催します。

2月11日（木：祝）の三重テラスでのオープニングイベントとなる、「プレス発表会」「食レセプション」では、知事とゲストとのトークショーなども行う予定です。（三重県戦略企画部広聴広報課事業）

4 その他情報発信に向けた取組

ホームページ・SNSのリニューアル

2月中旬を目途にホームページ、SNSのリニューアルを行います。

5 東海3県1市との連携

二子玉川ライズで実施される、「伊勢志摩サミット開催100日前記念 三重県フェア in 二子玉川ライズ」に東海3県1市が連携した取組としてブースを出展します。

6 応援事業等との連携

「美し国三重市町対抗駅伝」ゴール地点で実施される「市町交流市場物産展」へ出展し、伊勢志摩サミットのPRを実施するとともに、三重県農産物等を使用したG7各国にちなんだパン等の販売を予定しています。

7 市町・県と連携した広報

市町や県各部局が主催するイベント等でポスターやのぼり等を掲示することによりサミットのPRを行います。

(1) 市町イベント（ポスター・のぼり掲示等）

年月日	行事名	場所	市町
H28.2.1	伊勢市情報配信センター開設 プレス向けオープニングセレモニー	JR伊勢市駅（南口） 手荷物預かり所前	伊勢市
H28.2.4	四日市STYLE 久留倍官衙遺跡シンポジウム	三重テラス	四日市市

H28. 2. 4	おひなさまめぐり in 二見 オープニングセレ モニー	二見老人福祉センター	おひなさまめぐり in 二見実行委員会、NPO 法人二見浦・賓日館の 会
H28. 2. 6	東海道のおひなさま亀山宿・関宿 オープニングイベント	関宿足湯交流施設	東海道のおひなさま亀 山宿・関宿実行委員会
H28. 2. 6	かめやま会故の森 「森林の恵みと林内整備」	かめやま会故の森 (関観音山公園)	かめやま会故の森環境 整備協議会
H28. 2. 6	第 5 回地球塾	鳥羽商工会議所 3 階か もめホール	鳥羽市 生涯学習課
H28. 2. 6	輝く女性とまちづくりのシンポジウム	東員町総合文化センタ ーひばりホール	東員町 企画部政策課
H28. 2. 6	名張市男女共同参画推進フォーラム 2015	武道交流館いきいき	名張市 生活環境部人権・男女 共同参画推進室
H28. 2. 11	石神さん女子マラソン大会	鳥羽市相差町千鳥ヶ浜	鳥羽市総務課
H28. 2. 11	人権を考える市民のつどい	鈴鹿市文化会館	鈴鹿市生活安全部 人権政策課
H28. 2. 13	津市人権講演会	津リージョンプラザ お城ホール	津市市民部人権課
H28. 2. 14	市内一斉清掃活動 ※キックオフイベントあり	市内各地区 ※キックオフイベント 阿児ふるさと公園	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 14 ～	伊勢志摩サミット 100 日前記念カウントダウ ン企画「仲間といっしょにカウントダウ ン!!」	市内各地	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 14	キックオフイベントとして各区における クリーンアップ活動	町内全城	南伊勢町 環境生活課
H28. 2. 14	～きれいなまちでお迎え～ クリーンアップ活動 in 伊勢 ～100 日前キックオフイベント～	・伊勢市駅、宇治山田 駅周辺 ・五十鈴川駅周辺 ・二見浦駅周辺	伊勢市 商工労政課
H28. 2. 14	三重県自治会連合会 クリーンアップ活動 in 亀山	亀山市文化会館及び 亀山駅周辺	亀山市自治会連合会
H28. 2. 14	企画展関連講演会 第 2 回 連続講座 「シカとヒト」	鈴鹿市考古博物館講堂	鈴鹿市考古博物館
H28. 2. 16	伊勢志摩サミット 100 日前イベント 国道 260 号、サニーロード等沿いの町有地等 12 箇所に、町で作成した伊勢志摩サミットの のぼり旗等を 240 本設置	町民文化会館、五ヶ所公 園、河村瑞賢公園、 南島メディカルセンタ ー他	南伊勢町建設課
H28. 2. 20～ 3. 3	伊賀上野・城下町のおひなさん	伊賀市上野本町通り周 辺	伊賀市 産業振興部観光戦略課

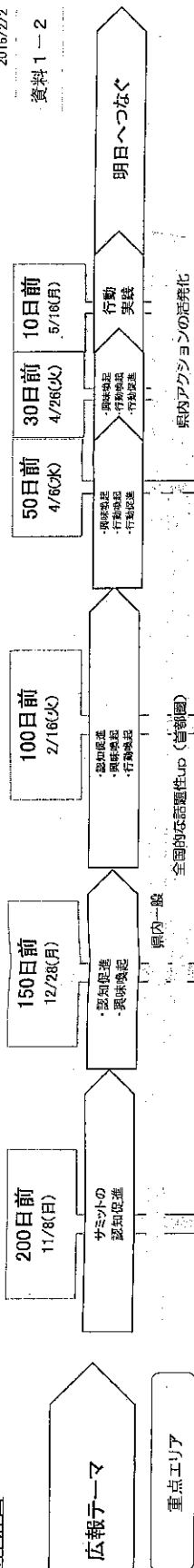
H28. 2. 20	三重大学伊賀連携フィールド総括シンポジウム	ハイトピア伊賀3階	伊賀市 企画振興部総合政策課
H28. 2. 20	志摩市小中学生カルチャーコンクール表彰式	志摩市役所	志摩市 教育委員会事務局 学校人権教育課
H28. 2. 20	伊勢志摩サミット100日前記念イベント 『志摩市まるごとおもてなしムーブメント』	市内各地区 (大王・志摩・磯部)	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 21	伊勢志摩サミット100日前記念イベント 『志摩市まるごとおもてなしムーブメント』	市内各地区 (浜島・阿児)	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 21	第15回 大人たちのdoki doki コンサート	アドバンスコープ ADSホール	名張市 教育委員会文 化生涯学習室
H28. 2. 21	考古博物館 春まつり	鈴鹿市考古博物館	鈴鹿市考古博物館
H28. 2. 27 ・ H28. 3. 5	「伊勢志摩サミット開催記念」 生涯学習講座	津市中央公民館会議室	津市教育委員会事務局 生涯学習課
H28. 2. 27	消防ひろば	アピタ鈴鹿店	鈴鹿市消防本部予防課
H28. 2. 27	市民講座「つながれば、ひろがる ～キーワードは男女共同参画～」	鈴鹿市男女共同参画 センター	鈴鹿市男女共同参画課
H28. 2. 28	亀山市植樹祭	亀山市立白川小学校	亀山市
H28. 2. 28 (天候により順 延の場合あり)	世界への架け橋 ～公園で吊橋を作ろう～ (仮)	市内 (現在調整中)	桑名市 ジュニアサミット 推進課
H28. 2. 28	ひろば de ノルディックウォーキング 体験会2	津市まん中広場 (集合場所)	津市商業振興労政課
H28. 2. 28	大門ありえやんフェス	大門大通り商店街及び 津観音公園	津市商業振興労政課
H28. 2. 28	第21回武四郎まつり	松浦武四郎記念館	武四郎まつり実行委員 会 (松阪市三雲地域振 興局地域振興課内)
H28. 2. 28	青蓮寺湖駅伝競走大会	青蓮寺湖周辺	名張市教育委員会 市民スポーツ室
H28. 2. 28	第60回新入学を祝うよい子のつどい	鈴鹿市民会館	鈴鹿市教育委員会学校 教育課

(2) 県各部局イベント(ポスター・のぼり掲示やサミットに関連したイベントを実施します。)

年月日	行事名	場所	担当課
H28. 2. 2	訪日外国人おもてなし研修	伊勢庁舎 401 会議室	健康福祉部 食品安全課
H28. 2. 2	衛生管理セミナー (レジオネラ症防止対策)	伊勢庁舎 401 会議室	健康福祉部 食品安全課
H28. 2. 6 ～14	三重まるごと自然体験・首都圏 PRイベント	赤坂サカス及び モンベルショップ 東京京橋店	農林水産部 農業基盤整備課

H28. 2. 6	第3回古代歴史文化賞記念シンポジウム ※知事出席予定	銀座プロッサム（銀座中央会館）ホール	環境生活部 文化振興課
H28. 2. 6	みえの文化セミナー「斎宮と伊勢神宮の伝説」	近鉄文化サロン阿倍野	環境生活部文化振興課 （斎宮歴史博物館）
H28. 2. 7	ええとこやんか三重移住相談会	ふるさと回帰支援センター（東京）	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 7	熊野古道セミナー	三重テラス	地域連携部 南部地域活性化局 東紀州振興課
H28. 2. 9	まるごと三重の自然体験・第2回いなかビジネス実践者大会	三重県 総合文化センター	農林水産部 農業基盤整備課
H28. 2. 9	平成27年度東海・近畿・北陸ブロック国際化営農研究会	鳥羽シーサイドホテル	農林水産部 担い手育成課
H28. 2. 9	子ども・若者支援フォーラム	総合文化センター 小ホール	健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
H28. 2. 9 ～10	（9日）米国フロリダ州オーランド市における 現地料理人向け松阪牛メニュー研修会 （10日）米国フロリダ州オーランド市における 松阪牛PRフェア・オープニングセレモニー	フォーシーズンズ・リゾート・オーランド	農林水産部畜産課
H28. 2. 10～ 12	スーパーマーケット・トレードショー	東京ビッグサイト	雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課、地域資源活用課
H28. 2. 10	人権講演会「土地差別をなくすために」	くわなメディアライヴ	環境生活部 三重県人権センター
H28. 2. 11	思春期保健指導セミナー	三重県医師会館	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
H28. 2. 11	ふるさと・いいこと・フェア ※知事出席予定	品川インターシティホール	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 11	海女トーク・サミット開催記念 ※知事出席予定 （100日前記念プレス発表会の前に開催）	三重テラス	教育委員会 社会教育・文化財保護課
H28. 2. 11～ 22	伊勢志摩サミット100日前記念 三重ウィーク in 日本橋 ～This is Japan, This is Mie～ ※2. 11 「100日前記念プレス発表会」 知事出席予定	東京日本橋エリア （三重テラス、三越、 ビジョンセンター東京等）	戦略企画部 広聴広報課
H28. 2. 12	伊勢志摩サミット開催・ICETT 設立25周年記念事業 ASEAN 環境フォーラム in 三重 ※知事出席予定	四日市都ホテル	雇用経済部 雇用経済総務課

H28. 2. 13～ 14	伊勢志摩サミット開催100日前記念 「三重県フェア in 二子玉川ライズ」	二子玉川ライズ (東京都世田谷区)	雇用経済部 三重県営業本部担当課
H28. 2. 14	いいね！地方の暮らしフェア	サンシャインシティ 文化会館	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 16～ 5. 16	サミットカウントダウンプレゼント企画	三重テラス	雇用経済部 三重県営業本部担当課
H28. 2. 16	平成27年度「県と市町の地域づくり連携・協 働協議会」総会 ※知事出席予定	ホテルグリーンパーク 津	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 19	料理研究家対象 会員制セミナー	東京都中央区銀座 東京ガススタジオプラ スジーギンザ	農林水産部 水産資源課
H28. 2. 20	伊勢志摩サミット100日前イベント M I E地方創生ベンチャーサミット2016 ※知事出席予定	四日市都ホテル	雇用経済部 中小企業・サービス産 業振興課
H28. 2. 20～ 21	伊勢志摩サミット開催記念 第9回美し国三重市町対抗駅伝 ※知事出席予定	開会式(津センターパ レスホール)(20日) レース(県庁前～三重 交通G スポーツの杜 伊勢)(21日)	地域連携部 スポーツ推進局 スポーツ推進課
H28. 2. 20	育児男子大交流会、子ども応援隊育成事業企 業表彰式、講演会	みえこどもの城	健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
H28. 2月の 土日祝日	近鉄観光列車「つどい」車内で木育体験～三 重の木のボールプール「もりぼーる」で遊ぼ う～	近鉄観光列車 「つどい」車内	農林水産部 みどり共生推進課
H28. 2. 24	衛生管理セミナー (アレルギー表示など)(仮)	合同ビル G301	健康福祉部 食品安全課
H28. 2. 26	平成27年度毒物劇物安全対策講習会 ～伊勢志摩サミット成功に向けて～	三重県総合文化センタ ー中ホール	健康福祉部 薬務感染症対策課
H28. 2. 28	平成27年度「学生」×「地域」の取組事例 発表会 ベストプラクティスコンテスト *知事出席予定	三重県庁 講堂	戦略企画部 戦略企画総務課
H28. 2. 28	猫と犬の正しい飼い方セミナー	メッセウイング・みえ 2階大研修室	健康福祉部食品安全課



広報アクション		平成27年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月～
開催支援	開催推進盛り上げのための レセプション インフォメーションセンター ボランティアの募集・研修			開催								インフォメーション・展覧	
	ボランティアの募集・研修		9/5第1回(志保)										
おもてなし	サミットフォーラム												
	おもてなし向上研修												
おもてなし	クリーンアップ作戦												
	花いっぱい作戦												
明日へつなぐ	カウントダウンボード												
	県、市町との連携事業												
三重の祭屋	ジュニアサミット												
	県内学校・民間団体等にお ける国際理解・交流												
三重の祭屋	県内外イベントでのPR												
	ホームページ・SNS												
三重の祭屋	情報誌・ハンドブック												
	ポスター												
三重の祭屋	みえだより												
	県政だより												
三重の祭屋	シンボルマーク												
	海外プレスツアー等												
三重の祭屋	海外ミッションでのPR等												
	三重県情報誌(仮称)												
協賛・応援、寄附													
各種応援事業等との連携													

平成 28 年 2 月 2 日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議 新規事業（案）について

◆ 生活衛生関係営業向け外国人おもてなし向上事業

外国人旅行者へのおもてなしレベルを向上するため、飲食店や宿泊施設向けにアレルギー表示や宿泊者名簿に関する外国語表記の推進を図るとともに、接遇ノウハウについて学ぶ研修会を開催する。

◆ 大学生・留学生との交流事業

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招聘し、県内大学生、留学生との交流機会を設ける。

◆ 海外メディアでの P R

伊勢志摩サミット開催を千載一遇の機会ととらえ、サミット開催地である三重県の様々な魅力を、海外メディアを通して発信することで、三重県の認知度を高め、サミット後のインバウンドの増や M I C E の誘致、県産品の販売増などにつなげる。

◆ サミット P R 動画の制作

伊勢志摩サミット開催 100 日前を契機に、より都市圏の人々及び訪日外国人に対して三重県を印象づけ興味を喚起させるため、サミット開催県知事からのメッセージをベースとし、「伝統と革新が共存する場所、三重」をキーワードに三重県全体の P R を行う動画（30 秒）を制作し、首都圏等で放映する。

◆ A N A 機内誌等での P R

A N A ホールディングス株式会社のご協力をいただき、機内誌への P R 広告の掲載（国内線 4 月、国際線 5 月、機内での P R 動画の放映（国内線 5 月）、また、A N A が展開している Taste of Japan にて 2 月に国内線で放映予定の映像（30 分）を編集し、C N N での P R 動画の放映等を展開する。

◆ サミット記録誌の発行

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てる。

◆ サミット記念館の設置

地域の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、子どもたちに学習の機会を提供し、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

平成 28 年 2 月 2 日
開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、報道関係者、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者等

(3) センター概要

- ①開設日 平成 27 年 8 月 24 日 (月)
- ②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム
※株式会社 JTB 中部 (代表)、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の 3 社による共同事業体
- ③住 所 三重県津市羽所町 375 百五・明治安田ビル 5 階
- ④電話番号 059-228-8450
- ⑤営業時間 平日 9 時 30 分から 17 時 30 分まで (土日祝は休業)
- ⑥職員体制 25 人 (2 月 1 日から 4 人増員)

(4) 宿泊施設確保状況

本年 3 月 24 日から 5 月 29 日までを 5 つの期間に分けて、それぞれの期間に必要と想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山・鈴鹿以南のビジネスホテル (洋室) を主な対象に取り組んできました。

現時点で、最大 2 万 5 千人の宿泊を想定するサミット開催前後 (5 月 24 日から 29 日) の期間以外は必要数を確保できていますが、開催前後の警備関係者や支援事業者用の客室については、対象地域を拡げつつ、引き続き宿泊施設に対し協力を依頼し、必要な客室の確保を進めています。

昨年 7 月には、宿泊対象と想定されうる施設に対し、GW 明けからサミット開催までの期間の宿泊予約を受付けないよう依頼しましたが、この協力依頼は 10 月 16 日に解消しました。また宿泊予約センターによる配宿への協力申し出があった客室についても、出来る限り機会損失のないよう使用見込みのない期間・地

域の客室については、11月10日以降、順次、各施設への返還を行っています。

(5) 風評対策

4月・5月の伊勢志摩方面への旅行について、「宿が取れないのではないか」などの風評が一部で有るようですが、GW期間中までは、宿泊予約センターがサミット関係者用に確保している客室もそれほど多くなく、センターの確保分以外は各宿泊施設が通常通りの営業を行っており、GW明けも開催が近づくまでは一般観光客の利用について特別な制限は有りません。観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供に取り組むことにより、正確な理解の促進と誘客に努めています。

【県民会議（宿泊予約センター）の取組状況】

・1月14日（木）

JTBグループが取引している全世界の旅行代理店向けに配信されるメールマガジン（Japan Infocus）において、伊勢志摩の魅力についての記事を掲載するとともに、ゴールデンウィークからサミットまでの期間についても来訪を歓迎することを発信。

※その他、宿泊予約センターを運営する共同事業体を構成する㈱JTB中部、近畿日本ツーリスト㈱、㈱日本旅行において、積極的な旅行プランの造成や風評被害防止のための正確な情報発信に努めていただくよう要請。

3 事業実施スケジュール（予定）

- ・8月31日～9月7日 宿泊施設向け説明会の開催
(伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市で計10回)
- ・9月～ 必要な客室数の確保
- ・10月～ センター新事務所開設、宿泊希望者からの問合せ対応・調整
- ・11月～ 確保済み客室の内、使用見込みのない客室の返還（随時）
- ・12月21日 宿泊予約センターホームページの立ち上げ
- ・1月29日 ホームページでの宿泊予約受付開始（報道、支援事業者）
- ・1月29日 宿泊施設に対する配宿計画案の提示
- ・3月下旬 宿泊施設への中間予約状況報告
- ・4月25日 ホームページでの宿泊予約受付終了
- ・1～4月 宿泊施設向け説明会、外国人おもてなしセミナー等の開催

平成28年2月2日

開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5月26日午後、27日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ：「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード：「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

三重県提案の採用を検討段階の外務省に改めて働きかける。検討に際し、具体化が必要な内容に関しては調整のうえ、情報提供を行っていく。

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体的に検討し実施する。

平成 28 年 2 月 2 日

事業推進課

ジュニア・サミットについて

1 目的

ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 これまでの経緯

8 月 5 日 鈴木知事から中山泰秀外務副大臣に本県開催を強く要望

9 月 17 日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、開催日程（案）や討議テーマ及び討議に資する視察先を提案

10 月 27 日 外務省飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション」にて、岸田文雄外務大臣がジュニア・サミットの三重県開催を発表

【開催時期】 平成 28 年 4 月 22 日から

【開催場所】 三重県桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催

11 月 17 日 ジュニア・サミットに参加する日本代表を募集（～12 月 7 日）

12 月 19 日 ジュニア・サミットに参加する日本代表の選考会を実施

12 月 25 日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、県内分散型の体験・交流プラン及び三重ならではの歓迎交流行事を提案

1 月 23 日 ジュニア・サミット日本代表に対する事前研修を開始（～4 月 9 日）

3 事業の概要

(1) 開催内容について

- ・ 名称：「2016 年ジュニア・サミット in 三重」
- ・ 開催期間（予定）：平成 28 年 4 月 22 日から 28 日まで
（4 月 21 日会場入り、4 月 29 日東京出発）
- ・ 主催：日本国外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議
- ・ 会議（討議）テーマ（案）：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」
- ・ 参加者：G7 各国の原則として 15 歳～18 歳の 4 名のチーム（男性 2 名、女性 2 名）及び付添人 1 名
- ・ 使用言語：英語
- ・ プログラム（暫定）
 - 4 月 21 日（木）桑名市到着
 - 4 月 22 日（金）開会式、会議
 - 4 月 23 日（土）会議、視察
 - 4 月 24 日（日）会議
 - 4 月 25 日（月）県内分散型交流行事
 - 4 月 26 日（火）会議、三重県送別行事、東京に移動

4月27日（水）政府首脳に成果文書提出（27日又は28日）、都内視察

4月28日（木）同上

4月29日（金）東京出発

4. 今後の取組方針

- (1) ジュニア・サミットに日本代表として参加する高校生については、引き続き事前研修を行うとともに、外務省と協議の上、適切な時期に発表を予定しています。
- (2) 三重県ならではの歓迎・交流行事や、県内高校生等との交流を含む県内各地分散型の体験・交流の具体的なプランについて、訪問先が決定後、関係市町及び関係施設と実施に向けた調整を行っていきます。
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等と参加者の交流や、県内農業高校等による飾花活動等、少しでも多くの県内高校生が参画できるよう、引き続き外務省と協議します。
- (4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、北勢地域の市町や県内の関係者と緊密な連携を図っていきます。

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマーク（平成 27 年 12 月 28 日に決定）に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催機運の醸成を図ります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信しました。

① 近藤敦也氏に作成を依頼（平成 27 年 8 月 21 日）

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票（平成 27 年 9 月 25 日～10 月 1 日）

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただくシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けました。

※ 投票総数 3, 577 票

③ シンボルマークの県民会議会長、副会長、理事による投票

（平成 27 年 10 月 2 日～10 月 5 日）

県民投票の結果、上位 2 案に対して県民会議会長、副会長、理事による最終投票を実施しました。

④ シンボルマークの決定（平成 27 年 10 月 13 日）

3 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

県内外の企業・団体・個人による応援事業や企業・団体からの協賛の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。

平成 28 年 2 月 2 日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

第 2 回伊勢志摩サミットフォーラムの開催結果について

- 1 日時 平成 28 年 1 月 16 日 (土)
13:00～15:45 (開場 12:00)
- 2 場所 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂
(鈴鹿市南玉垣町 3500-3)
- 3 内容
 - (1) 挨拶 鈴木三重県知事、末松鈴鹿市長
 - (2) 講演「伊勢志摩サミットのレガシーを生み出す“おもてなし”戦略とは」
講師 中村好明氏 (ドン・キホーテグループインバウンド責任者 兼
株式会社 J I S 代表取締役社長)
概要・レガシーとは、「予めの人々の明確な意思や意図を持って残される
財産」である。伊勢志摩サミットの効果をレガシーとするためには、
8 つのテーマ①シティアイデンティティ (地域の誇り)、②ホスピタ
リティ (世界に開かれたおもてなしの心)、③アフィニティ (同源性
に由来する親近感、親和性)、④県内全域での英語接客の定着、⑤イ
ンバウンド分野での地域連携、⑥関係関係会合開催都市との連携、
⑦MICE (国際会議等の総称) の振興、⑧インバウンド 3.0 (すべて
の産業・人がインバウンドへ関与すること) が求められる。
・外国人観光客は日本の旅行を楽しみ、無形の思い出や有形のお土
産物を本国へ持ち帰るので、インバウンドは外貨を稼ぐ“輸出産業”
である。人ではなく、物の流れでとらえて欲しい。
・経済活動の「米仕事」(経済性を求める、つまり稼ぐための仕事の
こと) と社会奉仕の「花仕事」(公共的・社会的視点で行う金銭的代
価を超えた仕事のこと) の両方が公共哲学には必要だが、現在の日
本は「米仕事」に集中している。持続的にインバウンドを進めるた
めには、双方のバランスが大切だ。県民個々がどのような「花仕事」
ができるのか? と考えてもらいたい。そして、伊勢志摩サミットの
開催を通じ、47 都道府県の先鋒として、インバウンド 3.0 の時代
へ突入し、レガシーとしてもらいたい。

(3) トークセッション

スピーカー

山田文比古 氏（東京外国語大学教授）

ラース ニコライゼン 氏（ドイツ通信社東京支局長）

清水慎一郎 氏（清水清三郎商店株式会社代表取締役）

森川徹 氏（外務省大臣官房報道課長）

中村好明 氏（ドン・キホーテグループ株式会社 J I S 代表取締役社長）

コーディネーター

鈴木英敬会長（三重県知事）

概要 いただきました貴重な発言や提言の一例は次のとおりです。

山田文比古氏「外国人も様々な方がいる。おしつけずに、柔軟性を持って対応することが肝要。最高と思っで行うおもてなしも、文化が違えば受け取り方も違うし、料理の味付けや提供する温度なども、食文化によって良し悪しが異なってくる。」

中村好明氏「食の情報発信に、新しいインセンティブ（普段入れないところで食事ができるなど＝ユニーク・ベニュー）を付加させると、顧客の満足度も高まり、話題性が出る。」

4 参加者

690名

うち一般参加者600名（定員600名）

うち県議会議員・報道・関係者等90名

5 アンケート結果

(1) 一般参加者600名中、282名から回答（回答率47%）

(2) 鈴鹿市・北勢地域からの参加者 43.1%

(3) フォーラムの内容について

「大変良かった」、「良かった」…97.1%

(4)「伊勢志摩サミット」への関心や、おもてなしへの参加意欲が深まったか、おもてなしへの参加のきっかけになったかについて

「大変そう思う」、「そう思う」…95.3%

6 今後に向けて

次回は、4月に開催を予定しています。

平成 28 年 2 月 2 日

開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等のPRを行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 取組状況

10月9日（金）に、知事から外務省に対し、積極的に県産食材等を活用されるよう以下のリストを提出し要望を行った。

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成。
- ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募を行い、みえセレクション選定品を含め、審査会を経てリストを作成。
- ・日本酒：関係機関と調整のうえ、全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が奨める日本酒をとりまとめリストを作成。

外務省への要望後は、ホテル・旅館への提案活動を実施している。

※志摩市、鳥羽市のホテルを中心に雇用経済部、農林水産部と協同し、上記のリストを持参しての提案活動を実施中。

同時に、12月1日（火）に、農林水産部が主催する「三重の食材を知る会 VOL. 1」（開催場所：伊勢安土桃山文化村）への参加も呼び掛け、活用の推進を促した。

この他に、警備関係者等を対象とする弁当供給業務においても、供給事業者に対し、県産米の使用と県産食材の積極的活用を求めている。

4 今後の進め方

各国の宿泊ホテル決定後に、第2回の提案活動を予定しており、積極的な採用を提案していく。

平成 28 年 2 月 2 日

開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的とする。

2 取組内容

(1) 業務内容

弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

(3) 整備する供給体制

①屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要（以下、「大規模需要」）への対応

②屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要（以下、「小規模需要」）への対応

3 大規模需要への対応について

(1) 実施事業者の選定

企画提案コンペにより以下のとおり決定しました。

①審査基準

- ・ 業務遂行能力に関する事項
- ・ 衛生管理に関する事項
- ・ 食材及びメニューに関する事項
- ・ 環境への配慮に関する事項

②募集期間

平成 27 年 10 月 30 日から 11 月 30 日

③応募者数

5 事業体

④受託事業者（平成 28 年 1 月 25 日公表）

- ・ A 地区：志摩市（最大想定供給数 21,000 個／日）

株式会社ローソンを代表とする 4 社による共同事業体

構成員：オーケーズデリカ株式会社（県内弁当製造事業者）、株式会社キャリアカーサービス（県内運送事業者）ほか

- ・ B 地区：伊勢市、鳥羽市、津市ほか（最大想定供給数 5,000 個／日）

株式会社セブン・イレブン・ジャパンを代表とする 9 社の共同事業体

構成員：プレミアムキッチン株式会社（県内弁当製造事業者）ほか

(2) 県内事業者の参画

事業者選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を一社以上含めることを参加資格にするとともに、配送事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとすることで、県内事業者の参画を確保しました。また、より多くの県内事業者の参画を図るため弁当の配送場所を2地区に分けることとしました。

(3) 食品衛生管理体制

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査等を求めています。

事業者決定にあたっては、健康福祉部食品安全課・保健所と協力し、事前に弁当製造工場の食品衛生状況を確認しました。供給開始後も、月2回程度の監視指導を実施します。

(4) 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう企画提案コンペの仕様書に規定しました。今後、農林水産部フードイノベーション課と連携して県民会議の方から食材及びメニューの提案を行うことで、企画提案の内容に止めることなく、県産食材の活用促進に努めます。

(5) 弁当供給期間

平成28年3月下旬から5月下旬まで(予定)

4 小規模需要への対応について

宿泊者の昼食需要への対応など食事の提供に課題のある宿泊施設や、国際メディアセンター内の支援事業者、海上保安庁職員の一部など、屋内保管が可能で、比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、各地域の商工団体等とも協力しながら、両者のマッチングを促進していきます。

平成 28 年 2 月 2 日

事業推進課

おもてなし大作戦について

1 「おもてなし大作戦」として展開

伊勢志摩サミットの開催にあたって三重県を訪れる方々に、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型の「おもてなし大作戦」を展開する。

「おもてなし大作戦」は、「クリーンアップ作戦」と「花いっぱい作戦」の2つの取組で構成するものとし、両取組を連携させて展開することで、おもてなしに向けた県民運動の一体感を醸成するとともに、運動の訴求力と発信力の向上を図る。

2 「おもてなし大作戦」キックオフイベントの開催

県民一人一人がおもてなしの心を持って県全体で取り組んでゆくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、サミット開催100日前イベントとして、伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催する。

(1) 開催日時

平成28年2月14日(日)(100日前ウィーク)

8時00分から11時45分まで

(2) 開催場所

阿児ふるさと公園芝生広場(志摩市阿児町神明町1074番地14)

※志摩市阿児アリーナ横

3 クリーンアップ作戦

(1) 概要

①全県的な取組

一人でも多くの県民の方々に参加していただけるように、市町や自治会、関係団体・企業の実施している既存のクリーンアップ活動等を活用し全県的な県民運動として展開する。

【参加者】

県民、学生、市町、自治会、各種活動団体(NPO、ボランティア、サークル等)、企業等の多様な主体

【活動内容】

道路、河川、海岸等の清掃活動

②全県での展開

キックオフイベント開催の2月14日からサミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町や自治会をはじめ、企業、団体等による全県的なクリーンアップ活動の展開を目指す。

【市町】

市町は、クリーンアップ作戦を推進するため、地域におけるクリーンアップ活動の実施、支援等で協力をいただく。

【企業、団体等】

企業、団体等は、協賛、応援事業の枠組みを活用するなど、クリーンアップ活動の実施や物品の提供等で協力をいただく。

【協賛、応援事業の例】

提案者名	内容
三重トヨタ自動車株式会社	クリーンアップ活動へのごみ袋 10,000 袋、軍手 720 双、ゴミばさみ 100 本の提供
「小さな親切運動」三重県本部	クリーンアップ活動への参加
百五銀行「小さな親切」の会	クリーンアップ活動への参加
三重県生活衛生同業組合連合会	クリーンアップ活動への参加
三重県産業廃棄物対策推進協議会	伊勢湾漂着ごみ海岸清掃活動
株式会社ダスキン	クリーンアップ活動実施

4 花いっぱい作戦

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するため、「花いっぱい作戦」を実施する。また、この機会を利用して、三重県産の花き花木をPRし、魅力を発信する。

(1) 概要

①全県的な取組

各種活動団体（NPO、ボランティア、サークル等）、個人、学校、市町、自治会、生産者、企業等多様な主体のこれまでの活動を生かし、「花いっぱい作戦」として集約することで、4月から5月下旬までの開花・飾花をめざして活動する。

【定植、飾花場所】

それぞれの活動主体の活動範囲に応じて、これまでの活動を活性化することで、全県的な活動とする（道路（街路樹柵）、公園、駅前ロータリー、駅構内、県・市町庁舎等の公共施設、宿泊施設、遊園地・テーマパークなどを想定）。

なお、多様な主体の活動とは別に、駅前、駅前ロータリー、駅構内等の象徴的な施設数か所については、警備の制約等も勘案しつつ、サミット開催近辺に専門業者による飾花活動も実施予定。

②花いっぱい作戦アクションスタート

サミット開催前の50日前ウィーク前後に「花いっぱい作戦」のスタートセレモニーを実施するとともに、県内10カ所で花の寄せ植え体験講座を開催し、幅広い層のサミットへの歓迎機運及び参加意識の向上を図る。

【スタートセレモニー】

日時：平成28年4月（50日前ウィーク（4月6日）周辺）（未定）

場所：未定

【花の寄せ植え体験講座】

日時：4月中（未定）

場所：県庁舎10カ所で開催予定

（桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、志摩、尾鷲、熊野）

③全県での展開

スタートセレモニーからサミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町、企業、団体等による全県的な花いっぱい作戦の展開を目指す。

【市町】

市町は、庁舎や関係施設への飾花を行うなど花いっぱい作戦を推進するとともに、地域における花いっぱい運動の支援等で協力をいただく。

【企業、団体等】

企業、団体等は、協賛、応援事業の枠組みを活用するなど、花を植える活動や飾る活動、物品の提供等で協力をいただく。

例）サミット開催で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾花（宿泊施設、商業施設、駅構内、高速道路SA・PA、フェリー乗り場等）や、種、苗、用土、資材、栽培施設の貸与、栽培管理、技術・ノウハウ等の提供等

【協賛、応援事業の例】

提案者名	内容
株式会社三重興農社	飾花用のプランター150個提供
株式会社百五銀行及び百五銀行「小さな親切の会」	サミット開催日・応援ロゴマーク等を印刷したコスモスの種袋20,000袋を県内外の百五銀行本店・支店・出張所窓口で配布
花の国づくり三重県協議会	プランター作成や花壇装飾をする場合の講師役、主要駅における装飾が可能な場合の装飾、各国の記念樹を植樹する場合の補助
三重県花植木振興会	駅、市町役場等におけるサミット記念の飾花等
中日本高速道路株式会社名古屋支社	SA、PAの商業施設周辺にお花の飾り付けを行う
中日本エクスプレス株式会社名古屋支店	SA、PAの商業施設周辺にお花の飾り付けを行う
三重県緑化推進協会	市町が学校や自治会などから希望を募って実施する活動へ支援

5 共通事項

（1）統一デザインによる「おもてなし大作戦」の一体感づくり

「おもてなし大作戦」の統一デザインを作成し、看板、横断幕、のぼり、花壇プレートなどを制作し、視覚的統一感を図り、運動としての盛り上がりをわかりやすく表現していく。

(2) スケジュール

①参加呼びかけ（2月上旬～）

県民会議は、広く県民へ「おもてなし大作戦」への参加を呼び掛けるとともに、企業・団体等に地域での清掃活動、自社等の施設への飾花や物品・資材・技術等の協力など、「おもてなし大作戦」への参加、協賛・応援等を募集する。

②花苗等の準備（2月～4月）

県民会議は、「花いっぱい作戦」への参加状況と協賛物品等（花苗・資材等）を集約し、活動状況等を勘案して市町への花苗・資材等の配分計画を作成する

③おもてなし大作戦キックオフイベント（2月14日）

④クリーンアップ作戦の全県での展開（2月14日～サミット開催前5月下旬）

各市町、企業、団体等による全県的なクリーンアップ活動の実施

⑤花いっぱい作戦アクションスタート（4月上旬）

- ・スタートセレモニーの実施
- ・花の寄せ植え体験講座の実施

⑥花いっぱい作戦の全県での展開（4月上旬～サミット開催前5月下旬）

各市町、企業、団体等による全県的な花いっぱい運動の実施

平成 28 年 2 月 2 日

事業推進課

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用している SNS（Facebook ページ及び Twitter）についても、HP の運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化を図ります。

2 事業の概要

HP や SNS を活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HP のリニューアル及び HP ・ SNS の維持管理運営については、バナー広告等で賄うことを前提に、受託事業者は業務に係る経費をすべて負担することを条件に、当該 HP における広告収入を経費に充当できる仕組としていきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該 HP は日・英の 2 カ国語対応を基本とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・連携・寄附事業の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信

※コンテンツにあわせ、一部は多言語化を予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

伊勢志摩サミット開催 100 日前を目途（2 月中旬）にリニューアルする予定です。

平成28年2月2日

事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターの展開について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットをPRするための第1弾ポスター、県民会議のシンボルマーク決定を告知する第2弾ポスター、そして「おもてなし」をテーマに公募して第3弾ポスターを制作した。今後第4弾及び第5弾ポスターを作成することで、サミット開催への期待感と「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

第1弾 「起」：サミットが伊勢志摩で開催されることをPRし、期待感を醸成

第2弾 「承」：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

★第3・4弾 「転」：ポスターの公募

第5弾 「結」：「明日へつなぐ」をテーマに、県民のこれまでの活動を振り返りサミット終了が新たなスタートとなることを訴求

3 第4弾ポスターの公募

・第4弾ポスターは、サミット本番時に掲示されるポスターであり、世界のメディアが注目する訴求力のある高品質なポスターが求められる。そのため、第3弾ポスターに引き続き第4弾ポスターも公募形式とする。

・ポスターのテーマを「三重から世界へ（三重の魅力の発信）」とする。

国際的な発信に注力する時期に三重の魅力を改めて発信するとともに、世界のメディアが注目する訴求力のあるデザインを募集する。

①募集期間 平成27年12月21日（月）から平成28年2月5日（金）まで

②選考委員 5名

（座長） 水谷孝次 氏 水谷事務所／MERRY PROJECT 代表・アートディレクター
田端英明 氏 公益社団法人 三重県観光連盟専務理事
江崎貴久 氏 海島遊民くらぶ代表
三田絢子 氏 有限会社伊勢福・広報担当
森本佳菜 氏 三重大学大学院工学研究科建築学専攻博士
前期課程在学中

③選考基準

デザイン性、テーマの表現性、誘客性等

4 第4弾ポスタースケジュール

12月21日(月) 募集開始

2月 5日(金) 募集終了

2月 第一次審査、第二次審査

2月～3月上旬 第二次審査で選ばれた作品の著作権等の確認

3月中旬 最優秀賞者表彰及び知事記者発表

3月中旬～下旬 第4弾ポスターの配布

5 ポスターの活用・展開事項

県民会議関係者、市町、県、県地域機関、希望者(企業・団体・個人)

郵便局、金融機関、商業施設、公共交通機関関係、各種イベントブース等での
掲示を想定

平成28年2月2日

事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開

1 目的

伊勢志摩サミットに向けて、応援事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、歓迎機運の盛り上げを図る。また、伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、各種PRツールを作成し、節目イベントや様々な会議等において積極的に活用する。

2 取組内容

(1) カウントダウンボードの設置

200日前ウィークに361台設置、200日前ウィーク以降に応援事業として107台設置、150日前ウィークに新たに61台を各地に設置し、総計529台設置しました。

① 200日前 (11/8) ウィークに設置：361台

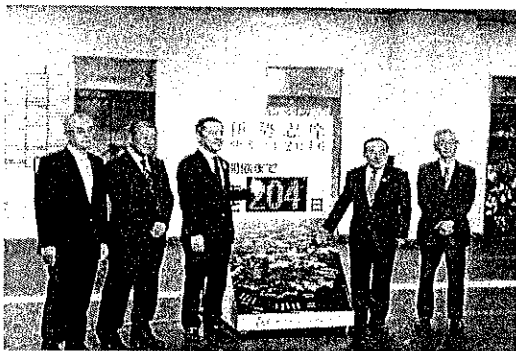
- ・県民会議による設置 82台
- ・応援事業による設置 279台

② 200日前ウィーク以降に設置：107台

- ・応援事業による設置 107台

③ 150日前 (12/28) ウィークに設置：61台

- ・県民会議による設置 13台
- ・応援事業による設置 48台



(平成27年11月4日：県庁除幕式)



(平成28年1月8日：外務省除幕式)



(平成27年12月28日：セントレア除幕式)

※伊勢志摩サミット東海会議にて実施



(平成27年12月22日：近鉄名古屋駅)

(2) 各種PRツールの作成

ポストカードサイズチラシ、手提袋、クリアファイル、ウェットティッシュ、風船、ICカードステッカー、ポチ袋、ポストカード等の汎用品ツールを作成しました。(今後は、こども向けシール、マスク、ビニールバックなどを作成予定)

3 今後の展開

(1) カウントダウンボードの展開

今後は、企業等の皆さまに応援事業としてご協力いただき、設置に取り組みます。

県民会議が設置したカウントダウンボードについて、サミット終了後の再活用を大型イベント担当部局と協議を行っています。

(2) 各種PRツールの展開

節目ウィークイベントや各サミット関連イベント等において、各種PRツールを用いて幅広く周知を行います。また、ポストカードを県主催イベント・市町主催イベント・県民会議会員主催イベントにてサミットPRを行っていただく場合には、提供させていただきます。

※申込先…事業推進課事業班 担当 藤田、前田 TEL059-253-5496

※不足する場合は追加で製作する予定(2週間程度必要)

平成 28 年 2 月 2 日

事業推進課

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透をはかるとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国関係機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業トータルで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

プレスツアー、ファムトリップ等

- (1) 県民会議主催プレスツアー（1泊2日） 3回実施

第1回…12月7日から8日（伊賀地域を中心に）…資料3-12-1 参照

第2回…2月17日から18日（東紀州地域）…資料3-12-2 参照

第3回…4月から5月（サミット前）に中南勢地域を中心に実施予定

- (2) 外務省等主催のプレスツアー

これまでに5回実施…資料3-12-3 参照

- (3) サミット開催を契機とした海外の富裕層への戦略プロモーション事業

欧米トップクラスの著名人を招へいたしたプレスツアーを2月中旬に実施予定

4 今後の予定

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程については、引き続き、県民会議から積極的に提案を行います。また、県民会議主催プレスツアーは外務省他主催のプレスツアー受入れ状況を勘案しながら、三重県全域の発信につながるよう開催地等を調整しながら実施します。

伊勢志摩サミット三重県民会議主催プレスツアーの概要

第1回

日 程：平成27年12月7日（月）、8日（火）

参加者：5カ国のプレス11名（中国4名、韓国4名、ロシア1名、米国1名、ドイツ1名、メディアの種類別ではTV5名、新聞5名、通信社1名）

取材の概要

（ア）モクモク手作りファーム

設立時に大手スーパーをターゲットにし、価格の壁に阻まれたという苦労話や非日常を演出する事業戦略を見出すまでの過程の説明がありました。記者からは今後の展開や現状の売上・収益について質問がありました。TVクルーは体験教室（ウィンナー、豚まん）の参加者の様子も撮影していました。

（イ）伊賀流忍者博物館

忍者博物館の歴史を聞いた後、「忍者とは」について三重大学山田教授から講義を受けました。忍術は知識の集合体であるというところに記者は興味を示していました。続いて三重大学久松名誉教授から「忍者と食」について講義を受けました。記者から「忍術」はサミットの警備に生かせるのかとの質問がありました。

続いて、阿修羅と最後の忍者といわれている川上仁一先生の直弟子の清本氏の実演があり、じっくり見入っていました。

（ウ）アグリー農園

一主婦が食の安全・安心を求めて5年前に起業した時の苦労話を聞いた後、障がい者との出会いと農福連携のビジネスモデルを作るまでの経緯について説明を受けました。記者は、目の不自由な人が播種作業をする姿を熱心に取材していました。

（エ）木の子の里

高齢者を元気にすることを目的に、試行錯誤でシメジづくりを始めた頃の苦労話や今後の展開について話を聞いた。記者から販売量や販売先や評判について質問がありました。菌床を育てている現場では、育成プロセスを熱心に取材していました。

（オ）うれし野アグリ

農業で日本の未来を変えたい3社が結集し、ミニトマトでは、国内最大かつ最高効率の生産を行う仕組みについて、熱心に耳を傾けていました。記者からは今後の方針や海外への販売実績や売上について質問がありました。現場では、最新鋭の生産システムを熱心に取材していました。

(カ) 知事インタビュー

知事から自己紹介ののち、取材先を踏まえ、6次産業化や農福連携についての考えについて質問がありました。サミット関係だけでなく地方分権、TPPの影響と対策等多岐にわたる質問がありました。

三重の食の発信

意見交換会（地元食材の発信）

伊賀・名張の食材と取材先で訪問先した企業の食材をふんだんに使った伊賀尽くしの料理は、大変好評でした。特に伊賀牛ラムステーキと伊賀牛寿喜鍋が好評でした。取材先エリアの物産やポスターも交流会会場に展示され、熱心に見入っていました。

2日目昼食（伊賀牛の発信）

伊賀牛の希少部位の焼肉に舌鼓を打っていました。ジューシーな肉にみな大変満足していました。

○掲載メディア

国内メディア

中日新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞

海外メディア

3か国で、19件放送・記事として取り上げられた。

伊勢志摩サミット三重県民会議主催第2回プレスツアーの概要

第2回

日 程：平成28年2月17日（水）、18日（木）

参加者：公益財団法人フォーリンプレスセンターより募集中

(1) テーマ

「豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業」

ニーズを掴んだアイデア豊かな水産業

(2) 取材先(訪問順)

「速水林業」(紀北町)、「三重県立熊野古道センター」(尾鷲市)、「松本峠」
(熊野市)、「花の窟神社」(熊野市)、「ビジョン早田実行委員会」(尾鷲市)、

「尾鷲物産」(尾鷲市)、「株式会社ディーグリーン」(紀北町)

(3) プレスツアーへの参加者募集期間

1月21日（木）～2月16日（火）

外務省プレスツアーの概要

1. ASEANプレスツアー（8月27日から28日まで）

○四日市公害と環境未来館

- ・多くの県内プレスの方（新聞、TV共）に取材をいただいた。
- ・ASEANプレスの方は総じて取材熱心だった。
- ・特に、公害問題への関心が非常に高く、語り部の方へは、多くの、具体的な質問が集中し、予定の視察時間を大幅に超過することとなった。

（例えば四日市ぜんそくがどのようなメカニズムで発生したか、など）

- ・カンボジアの記者からは「(自分の国では、まだ、ここまで産業が発展していないが、)将来的に懸念される環境問題を未然に防ぐ知識をここで学べたので役に立てたい」という主旨の発言があった。

○日本アルシー株式会社

- ・污水处理プラントの説明に対し、メカニズムや設置コスト、設置した場合のメリットなど、かなり具体的な質問があった。
- ・実際にプラント内の（浄化された）透明な水を見て、驚きの声があがっていた。

○夕食懇談会

- ・用意した三重県産食材を使ったメニューは予想以上に好評だった。
- ・ASEANプレスのうち1名から、メニューにあった「伊勢抹茶のブラウニー」をぜひおみやげに購入したいとの声があった。

○夜景クルーズ

- ・自国ではなかなか立ち入ることのできないコンビナート施設を、間近で見られたこと、しかもそれが観光という形であることに驚きの声があった。



2. 中東プレスツアー（8月30日から31日まで）

○昼食

- ・事前に外務省とも調整し、松阪牛を使用した料理の提供を予定していたが、現地で本人確認の結果、2名の記者からハラールでは無い肉はすべて摂取不可との回答を得たため、急遽内容を変更した。ムスリムに対するハラール対応の

難しさを体感した。

○せんぐう館

- ・一神教であるイスラム教圏のプレスに対し、神道における複数の神の存在の理解が困難であるようだった。
- ・神道における神と皇族の関係について、複数の質問があり、関心の高さがうかがえた。
- ・式年遷宮をなぜ 20 年に 1 度行うのか、また、式年遷宮が通常の周期で行われなかった理由について質問があがった。前者に対しては、「複数の説があるが、1,300 年前の皇帝の命令が今も引き続いている」旨の回答がなされた。後者に対しては、「式年遷宮が行われなかったのは戦国時代と第 2 次世界大戦の時であり、それぞれ世情が混乱している時に実施されなかった。言い換えれば、式年遷宮が実施される時は世情が安定している時であり、平和の象徴ともいえる」と神宮司庁の広報より解説がなされ、納得された様子であった。

○伊勢神宮 外宮

- ・手水舎での作法に関心があったようであり、一連の動作をそれぞれが興味深く行っていた。日本の作法等に関心があることがうかがえた。
- ・参拝はされなかったが、一般の参拝者が参拝する場所まで入り、参拝の様子を観察された。

○伊勢神宮 内宮

- ・宇治橋や橋の上から見る五十鈴川など、風景に対して関心があり、写真を撮影する姿が多く見られた。

○おかげ横丁

- ・五十鈴茶屋にて提供された赤福餅、抹茶に対して高い関心がうかがえた。また、日本的な畳の部屋にも関心を示していた。特に、抹茶については全員が飲み干し、後のおかげ横丁での買い物でも茶を立てる竹製の器具を購入するのみならず、後述する夕食懇談会でも全員がほうじ茶を注文するなど、日本茶の可能性を大いに感じた。
- ・UAE の記者は赤福餅と抹茶の写真を SNS 等でアップし、すぐに多くの反響があったと聞いている。

○夕食懇談会

- ・食事も含めたホスピタリティに全員から感謝の言葉を頂いた。なお、食事に関して、昼食と同様、予定していたラム肉から魚へメニューを変更した。
- ・最後に参加者それぞれから 1 日目の感想を述べられた。全員初日に対して良い印象であり、うち 2 名からは仕事以外で家族を連れてまた来たいというお言葉を頂いた。

○横山展望台、賢島

- ・海女漁視察が中止となったことを受け、参加者からの希望もあり、会場予定地の賢島周辺を視察した。横山展望台から英虞湾の風景を撮影する姿が多く見受けられた。賢島は車中からの視察のみ。

○海の博物館

- ・概ね以下の質問が挙がった。

①なぜ「海女」が女性であるのか

②海女文化を守るために政府の助成はあるか

③便利な道具がある中、現在の素潜りによる漁を続けるのか

それぞれ、館長より以下の旨回答がなされた。

①女性は男性に比べ脂肪が多く冷たい海に耐えられること、男性は遠洋へ出て漁をし、女性は近海の比較的安全な所で漁をすることが多いことが理由。

②日本は漁業を大切にしてきたが、海女だけ特別な助成はない。しかしながら、海女漁を大切にすべきとの考えから、文化財として保護する動きが出てきた。

③海女漁に限らず、海産資源を獲りすぎないことが重要である。実際海女漁は年間 60 日～70 日程度しか漁にでない。これはすべて海産資源を守る為でもある。

- ・博物館内の視察においても関心をもって視察されており、入口近くの海産物の見本（魚、貝など）は楽しそうに視察されていた。

○はちまんかまど

- ・事前に外務省から、中東地域は海産物に馴染みが少なく、貝などは不得手という情報があつたが、結果として、伊勢エビ、アワビ、ヒオウギ貝、大あさり、サザエといった海産物に対して、非常に満足して食されていた。

- ・海女とのコミュニケーションも盛んで、若い海女へのアドバイスについて話す場面も見られた。また、食事終盤で海女による相差音頭が披露された際も、参加者全員で踊りに参加されていた。

- ・はちまんかまどはムスリム向けに礼拝堂を設けており、数人が礼拝する場面もあった。参加者からは、「このような施設を紹介いただきありがたい」旨のお言葉も頂いた。

- ・国内プレスの質問に対してトルコの記者は、「自然と共生し、資源を守る海女文化は世界にとって大切。自国でも、発信していきたい」と回答していた。



3. ベルギープレスツアー（10月30日から31日まで）

○伊勢神宮 内宮

- ・写真に精通している記者だけあって、宇治橋や橋の上から見る五十鈴川の川面、神宮スギからの木漏れ日など一瞬の光景を逃すまいと写真を撮影する姿が多く見られた。同時に神宮についても、様々なしきたりがどのような理由で行われるようになったのかと重ねて質問する姿が印象的だった。

○おかげ横丁

- ・五十鈴茶屋で提供された赤福餅に対して高い関心がうかがえた、その後、赤福本店でも従業員の方に熱心に取材を行っていた。また、はじめて食べた伊勢うどんの濃厚なつゆの味わいとやわらかな食感に何度もおいしいと言っていた。

○夕食懇談会

- ・三重県に関する様々な質問がなされた。
- ・食事も含めたホテル側のホスピタリティに感謝の言葉を頂いた。

○ミキモト真珠島

- ・真珠には関心が高い様子で、真珠がどのように作られるか、その仕組みに大変興味深げであり多くの質問が寄せられた。
- ・白装束の海女の実演には欄干から身を乗り出しながら写真を撮っていた。
- ・ミキモト真珠島の職員の方のホスピタリティ、特に通訳の方への賛辞があった。
- ・最後に地元記者からのインタビューを受け、「素晴らしい自然や文化、食に恵まれた三重県はサミット開催地としてふさわしい場所だと感じた」旨の発言があった。また、記者同士の対話を楽しんでいる様でもあった。

○はちまなかまど

- ・生きた伊勢エビや鮑などの海産物に大興奮でシャッターを切っていた。
- ・現役の海女さんとのコミュニケーションを大いに楽しんでいた。
- ・提供された新鮮な素材を大変おいしそうに食していた。



4. イスラエルプレスツアー（11月14日から15日まで）

主な取材先(テーマ:日本の伝統と近代化)

○海女小屋

- ・海女の日常について多くの質問をしていた。
- ・特に資源保護にまで配慮した活動をしていることに感動していた。
- ・どの食材も非常に気に入って、たくさん食べていた。とくに桃取牡蠣がおいしいとおかわりしていた。
- ・これから、海洋資源はどうなっていくのかについて質問していた。
- ・本物の海女小屋の見学もリクエストし、多く写真を撮っていた。

○干物作り

- ・なぜ干物を作るのかについて、説明を受けた後、製造プロセスを一通り見学した。
- ・実際、干物作りに挑戦し、器用に包丁を使ってさばいていた。
- ・できた干物を焼いて、頬張っていた。

○寝屋親の家で寝屋子にインタビュー

- ・実親と寝屋親との関係について何度も質問していた。
- ・寝屋子に他の寝屋子との関係や一生の付き合いとなることは、なかなか理解できない様子であった。
- ・今後も寝屋子制度を自分の子供たちにも伝えていきたいとのコメントを聞いて、島の文化の奥深さを感じていた。

○河武醸造

- ・日本酒の製造プロセスを熱心に見学し、質問していた。
- ・大量生産のお酒と伝統的な作り方で造った酒の味の違いを感じていた。大量生産と伝統的な製造法の両立と今後10年間の戦略について質問していた。

○頭之宮四方神社

- ・神事をひとしきり見ながら、特に神楽に関心を寄せ、意味などを聞くとともに多くの写真を撮っていた。
- ・直会の時に周辺の多くの信者にどんな気持ちで神事に参加しているのかについて、質問していた。お神酒を好んで飲んでいた。
- ・神道とはなにか、日本の近代化にどういう役割を果たしたのかについて、詳しく質問していた。



5. クウェートプレスツアー（1月30日から31日まで）

主な取材先（テーマ）ムスリム対応

○志摩観光ホテル

- ・リアス式海岸を見ながら、素晴らしい眺めであると感嘆していた。
- ・ここに決まった場合、会場はどこになるのかと質問していた。
- ・志摩観光ホテルに泊まった著名人について質問し、熱心に記録していた。
- ・ワインへの関心が深く、ストックしているワイン、特に国産ワインのリストを見たいとの希望があり、ソムリエが丁寧に解説していた。
- ・宿泊部屋も見学した。

○佐藤養殖場

- ・船に乗って漁場に出て、稚貝の状態から大きくなるまでのプロセスを見学し、豊かな海を感じながら多くを写真に収めていた。
- ・海水を殺菌する機械を見学し、何の菌を殺すのかやどれくらいの時間で死滅するのかについて、熱心に質問していた。
- ・水を上から散布している理由についても質問し、システム化されたプロセスに感心していた。

○海女小屋（はちまんかまど）

- ・イスラムの礼拝所や清める施設を熱心に見学していた。
- ・イスラム国の中で、どの国の旅行者が多いかについて、質問していた。
- ・記者は、ダイビングを趣味としており、海女の潜りや呼吸について、熱心に質問していた。
- ・禁漁期間や禁漁日を作り、資源保護にも取り組んでいることや隣接する町とも連携して漁場を守っていることに感心していた。
- ・食べるものは、皆おいしいと平らげていた。特に伊勢海老には感嘆していた。

○伊勢神宮

- ・なぜ伊勢の地名になったのかや神様は、いつごろ現れたのかについて質問があり、神宮司應の担当者から丁寧な説明がなされていた。
- ・神様にお祈りするときに、何を祈るのかについて、質問があり、ただ感謝するだけとの説明に大変感動され、その心は、宗教の垣根を越えてすべての人々が持つべき基本事項だといっていた。
- ・神道は強制しないことも非常に大切だとのコメントもあった。
- ・内宮・荒祭宮他を作法に従って参拝された。

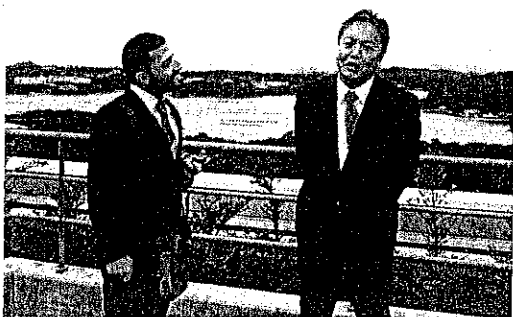
○オズ（海島遊民くらぶ）

- ・礼拝所等の施設を見学した。
- ・ムスリム対応を始めたきっかけや年数を重ねながら街全体の取組となってきたことについて、代表者からひとしきり説明を聞いた後、素晴らしい取り組みであり、ぜひ記事にしたいとのコメントがあった。
- ・ムスリム対応の専任者（ドゥインダさん）にイスラムの人の反応やどういうプロモーションをしているのかについて質問があり、今後もっとインスタグラムとツイッターを活用するようアドバイスがあった。

- ・プレゼン後、代表を含め、ムスリム対応を進めている推進者と記者とのディスカッションタイムとなり、ムスリムの食事への対応は、どのレベルまですべきかやレベル感の見極め方やムスリムの人へのアナウンスの仕方など多岐にわたり深い議論がなされていた。

○ムスリムへの対応食(夕食)

- ・味や素材を大切にしながら食を提供していることや食品についてかなり細かい説明がなされることに感心していた。
- ・クウェートは、海中に魚が住まず、沈没船ばかりなので、日本の海の豊かさを羨んでいた。
- ・日本食は、現地でも人気があり、日本人の料理人のレストランの話が出ていた。現地で食べるより、はるかに美味しいとコメントしながら多くの食べ物にチャレンジしていた。



平成28年2月2日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会の開催結果について

伊勢志摩サミット開催時に国際メディアセンター(伊勢市)内に設置される三重県情報館(仮称)の展示コンテンツを決定する、第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会を、下記のとおり開催しました。

記

- 1 日 時 平成28年1月19日(火) 17時15分～19時30分
2 場 所 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
(三重県津市栄町2-380 HOWAビル津5F)
3 出席委員 別紙「三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧」参照
※大川委員、坂委員、西村委員、丸川委員

4 内 容

(1) 委員長選出について

委員の互選により西村 訓弘(にしむら のりひろ)委員(三重大学副学長)が委員長に就任しました。

(2) 展示コンセプトについて(見せ方・伝え方)

「伝統と革新～“和”の精神」の基本コンセプトに基づく展示コンセプトは、「伝統」を守りながらも「革新」を積み重ねることで進化してきた「三重」の「姿」「技」「食」一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「常若」思想に決定しました。

(3) 展示カテゴリ及び募集方法

以下の展示カテゴリを以下の方法で募集することになりました。

カテゴリ		募集方法
姿	自然	県・市町推薦
	歴史・文化	
技	伝統工芸	県推薦
	先端技術	公募、県推薦
食		県推薦

(4) コンテンツの応募・推薦基準について

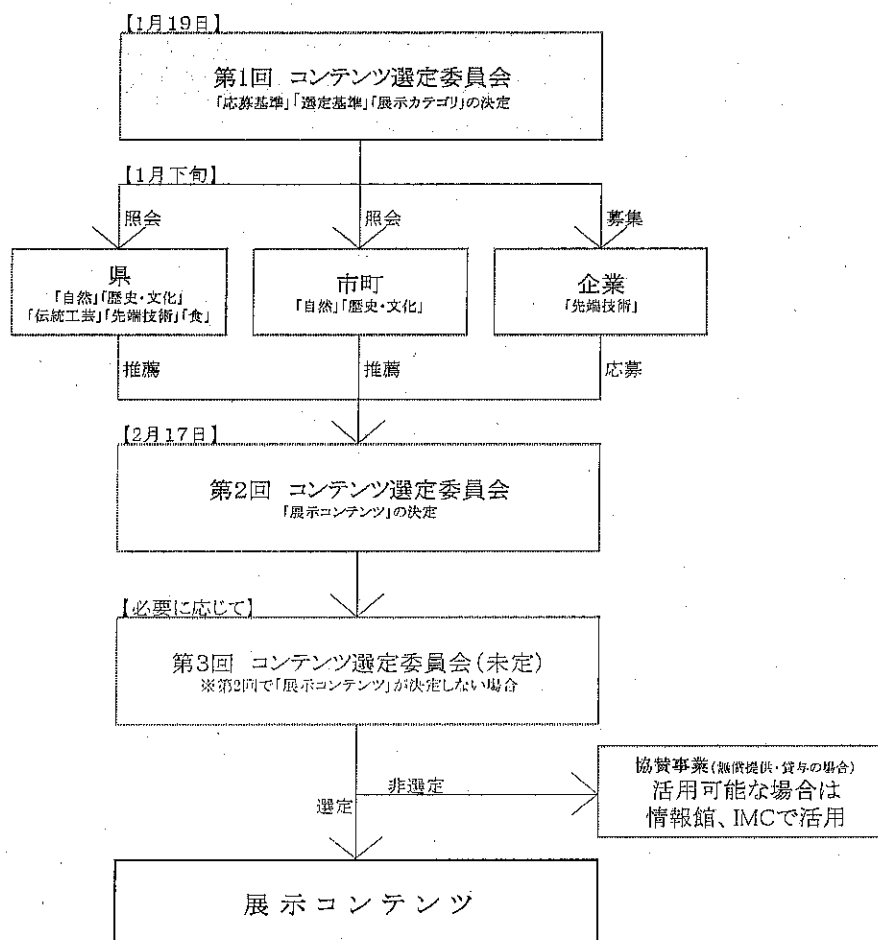
- ① 自然、歴史・文化については、三重県を代表するものであること
- ② 農林水産物については、三重県内で生産または加工されたものであること
- ③ 伝統工芸品については、国指定伝統的工芸品または三重県指定伝統工芸品として三重県において指定されているものであること。
- ④ 先端技術については、「三重県内で開発された“ものづくり”に関する先端技術であること」または「三重県内で製造・加工され、その過程の一部または全部に“三重の先端技術”が用いられた工業製品であること」

上記①～④を基準として応募・推薦いただくことに決定しました。

(5) コンテンツの選定基準について

各コンテンツの「訴求性」「独自性」「優位性」「将来性」及び「基本コンセプト
及び展示コンセプトとの調和」を選定基準とすることに決定しました。

(6) コンテンツの選定プロセスについて



(7) その他

冒頭、委員からは「三重県らしさを表現し、常若の精神を組込んだものにしたい」、
「伊勢神宮をどのような位置づけで海外に発信するか整理が必要」、「リラックス
できる場所、五感で体感できるものが必要」等の意見がでました。

5 今後のスケジュール

1月28日(木)～2月9日(火)

コンテンツの募集開始

2月17日(水)

第2回コンテンツ選定委員会(17:00～)

三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧

(五十音順)

氏名	所属・役職	略歴
いこま 芳子 生駒	FUTURADITION WAO (フュートゥラディションワオ) プロデューサー	ファッションジャーナリスト／アートプロデューサー。『VOGUE』『ELLE』での副編集長を経て、2004年より『マリ・クレール日本版』編集長に就任。2008年11月独立後は、ファッション、アート、ライフスタイルをテーマの核として、社会貢献、エシカル、社会起業、女性の生き方についてのプロジェクトを立ち上げ、雑誌や新聞への執筆にかかわる。クール・ジャパン官民連携プラットフォーム構成員、産業構造審議会委員、公益財団法人三宅一生デザイン文化財団理事、NPO「サービスグラント」理事などを歴任
おおかわ よしたか 大川 吉崇	学校法人大川学園理事長	三重県津市出身。三重高等学校教諭から大川学園に移籍、現在、学校法人大川学園理事長。大正から昭和初期の食生活について聞き取り調査をまとめた著書「三重県の食生活と食文化」や大台ヶ原山に息づく日本の文化の原風景を明らかにした著書「大台ヶ原山 知られざる謎」を執筆するなど三重の食文化や自然に豊富な知見を有する。全国調理師養成施設協会参与、三重県私立幼稚園協会常任相談役。三重ブランド認定委員三重のバイオトレジャー選定委員を歴任。
さか みゆき 坂 美幸	月兎舎 季刊「NAG I」編集長	三重県伊勢市出身。伊勢市内の老舗和菓子店に勤務後、地元情報誌を発行する「伊勢文化舎」に入社し8年間編集員として活躍。現在、月兎舎季刊「NAG I」の編集長、三重県内の住まい、町並み、里山等について「モノ」でなく「ヒト」に焦点を合わせた特集を多数企画している。また、伝統産業・地場産業新たな魅力創出事業費補助金予備審査会委員（三重県）、みえセクション採点者、三重県主催のシンポジウムでパネリストとして活躍。

たなか りさ 田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役副社長兼編集室長	三重県津市出身。広告会社を経て1993年に宣伝会議入社。1995年から広告専門誌「宣伝会議」の編集長を務め、2007年から編集室長。企業の広報宣伝戦略やマーケティングトレンド分析を手がけ、行政や企業の広報宣伝のあり方をアドバイスしている。伊勢志摩サミット・ロゴマーク選考会審査委員、東京2020大会エンブレム委員会委員、三重県経営戦略会議委員、国土交通省社会資本整備審議会委員、中央環境審議会委員、日本郵便株式会社社外取締役などを歴任。
にしむら のりひろ 西村 訓弘	三重大学副学長	三重県南伊勢町（旧南島町）出身。民間研究所、米国企業、大手外資系製薬企業の研究員などを経て、遺伝子解析技術の研究・開発に携わり、大学発バイオベンチャー企業の立ち上げに寄与。同ベンチャー企業の代表取締役社長を経た後、三重大学医学部特命教授、同大学大学院医学系研究科教授、2013年から現職。三重県経営戦略会議委員、みえ産業振興戦略アドバイザーボード委員を歴任。
まるかわ たつや 丸川 竜也	株式会社イストグラフ代表	三重県松阪市出身。独学でデザインを学び、2000年にデザイン事務所（株式会社イストグラフ）を設立。2008年にオリジナルブランド「丸川商店」を立ち上げ、主に、松阪市の伝統工芸品「松阪木綿」及び玉城町の伝統工芸「擬革紙」などの再興事業に注力し、現在、国内60社・海外4社にて販売中（平成2015年1月現在）。以降、三重県の様々な文化や食のデザインに取り組んでいる。三重県産業功労者表彰の審査委員を歴任。

平成 28 年 2 月 2 日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

開催支援課

国際メディアセンターについて

国際メディアセンター（IMC）は、約 5,000 名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミット取材することを念頭に置きつつ、外務省が、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営します。

1 開設期間（予定）

平成 28 年 5 月 25 日（水）から 5 月 28 日（土）まで

2 概要

報道関係者の作業スペースや国際放送センター等を備えるサミット取材のための総合施設。伊勢志摩サミットでは、三重県営サンアリーナに IMC の主要施設を設置するが、サンアリーナの既存施設では不足するスペース・機能を、仮設施設として整備する。なお、外務省から支出委任を受けた国土交通省が、仮設施設の建設を行う。

また、IMC では、取材拠点としての機能のみならず、政府・自治体による広報スペース、食事、内外装等を通じて、日本の魅力を世界に発信する予定。国内外合わせて約 5,000 名の報道関係者が記者登録することを想定。

3 仮設施設

仮設施設は鉄骨造 2 階建て延べ床面積 8,000 平方メートル。伊勢の街並みの黒壁など、地元の伝統的なデザインに加え、木の丸柱で囲まれた通路など、「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点。

4 利用対象者

IMC へのアクセスが許可されるのは、政府発行の伊勢志摩サミット取材記者証 ID 所有者のみ。

5 参考事項

邦人・海外プレスを対象にシャトルバスが、外務省からの委託で IMC 運営会社によって運営される予定ですが、運営エリア、各地区の乗降ポイント、走行ルートおよびスケジュール等は決まっていない。

伊勢志摩サミット国際メディアセンター（IMC）仮施設概要

国際メディアセンター

- ① 国際メディア・センターは、約5,000名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミット取材することを念頭に置きつつ、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営。
- ② 既存施設を最大限活用し、不足分を仮設。

主要諸室の概要

名称	主な機能
広報スペース	日本、伊勢志摩の魅力を紹介
アメニティサポート	国内外記者のためのレストラン、郵便・宅配等のサービスを提供
日本財プレス作業室	邦人記者が取材・作業等を実施
議長国プレス事務局	外務省の報道担当官等が執務

※外国プレス作業室、国際放送センターは、サンアリーナの既存施設に設け。

IMC施設イメージ(案)



国土交通省作成資料

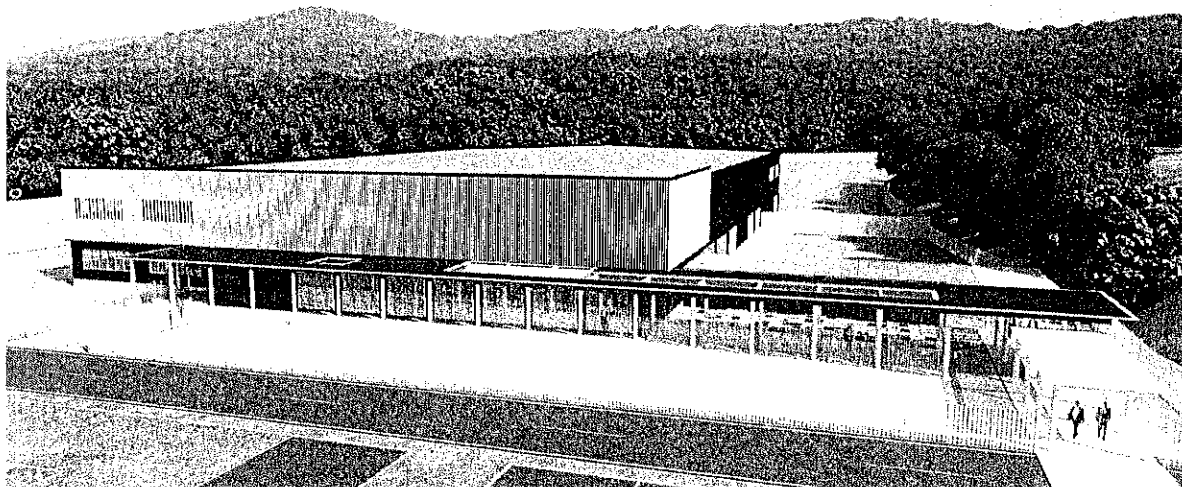
伊勢志摩サミット 国際メディアセンター仮施設設

国土交通省

〇「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点

- ・伊勢の街並みの黒壁等、地元で用いられている伝統的なデザインの活用
- ・木材の縦格子により、建物の正面性を表現した端正な佇まい
- ・木の丸柱に囲まれた通路により、エントランスへの誘導
- ・広報スペースの展示や提供される食事等を通じた日本の魅力の発信

■ 国際メディアセンター仮施設 完成予想図



平成 28 年 2 月 2 日
事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者および G 7 各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、取材を通じた内外への情報発信を促進します。

2 事業の概要

(1) プロローグ版三重県情報誌の発行

「伝統と革新」を兼ね備えた三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を「三重県人」にフォーカスして紹介するプロローグ版三重県情報誌「CLOSE UP MIE」を発行し、飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」で各国大使館員、外国人報道機関関係者に既存のパンフレット等とファイルにセットして配布しました。今後は、プレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布します。(発行部数:日本語版 2 千部、英語版 2 千部)

(2) 三重県情報誌の発行

三重県を愛する方々へのインタビューを通じて、「伝統と革新」を兼ね備えた三重県を感じてもらうための三重県情報誌「和～THE SPIRIT OF WA～」を発行しました。

今後は、プレスツアー、G 7 各国先遣隊、サミット開催時に来県する国内外報道関係者等に配布します。(発行部数:日本語版 8 千部、英語版 8 千部)

(3) プレス用ハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催時と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。なお、発行時期は、5 月上旬を予定しています。

3 今後の進め方について

- ・伊勢志摩サミット三重県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。
- ・プレス用ハンドブックの制作にあたっては、市町及び関係部局等と連携してより効果的な情報を掲載していきます。
- ・サミット本番時に記者に配布するプレスキットについては、外務省とも協議を行い効果的なキットとなるよう準備を進めます。

多様な主体における国際理解・国際交流事業について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供します。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざします。

2 事業の概要

(1) 国際理解・国際交流プログラム

県民の皆様、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生など、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、「国際理解・国際交流プログラム」を実施しています。(全 9 0 回実施予定、申込数 1 9 6 回分)

(2) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

外務省において実施する「イチからわかる！サミット塾」では、外務省の若手職員が講師となり、サミットや外交についてわかりやすい授業を、小・中・高等学校で実施します。県民会議では、当事業の取りまとめなど支援を行っています。(2 6 校で実施予定、申込数 3 1 校)

＊実施期間 平成 2 7 年 1 2 月上旬～平成 2 8 年 3 月下旬

(3) パネル展示等による参加国紹介

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成しました。平成 2 7 年 9 月 5 日の第 1 回伊勢志摩サミットフォーラム以降、イベント等で展示しています。

(4) イベントへの出展

平成 2 7 年 1 1 月 1 4 日～1 5 日、紀北町東長島スポーツ公園で開催された「第 1 0 回子育て応援！わくわくフェスタ」にブース出展し、伊勢志摩サミットの P R やサミット参加国の紹介を行いました。特に、子どもを対象として、子ども向けパネルの展示に加えて、サミット参加国等の国旗を利用したパズルや折鶴、手作りカウントダウンボードの作成など、楽しみながら理解を深めていただく取組を展開し、出来上がったカウントダウンボードを道の駅「紀伊長島マンボウ」に設置しました。

(5) その他

平成 2 8 年 1 月 1 9 日、津市との共催事業として、津市立南が丘中学校で在名古屋米国領事館首席領事及び津市長を講師として招き、「伊勢志摩サミット国際理解講演会」を開催しました。

3 取組方針

- (1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に関心を持てるよう、全県的な取組とします。
- (2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高めます。
- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていきます。

4 「国際理解・国際交流プログラム」の状況（実施済＋実施見込み）

（延べ回数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
幼稚園・保育所	11	5	1	7	0	24
小学校	15	9	3	4	1	32
中学校	6	1	0	5	0	12
高等学校	2	0	1	4	0	7
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
一般	4	0	3	3	0	10
計	41	16	8	24	1	90

○申込196回分（H27.12.21申込終了）・実施済56回分（H28.1.25現在）

5 「イチからわかる！サミット塾」の状況（実施済＋実施見込み）

（校数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
小学校	4	1	1	7	0	13
中学校	1	0	0	3	0	4
高等学校	2	1	3	1	2	9
計	7	2	4	11	2	26

○申込31件（H27.11.30申込終了）・実施済12校（H28.1.25現在）

6 今後の進め方

学校や市町、民間企業・団体等と連携し、「国際理解・国際交流プログラム」及び外務省主催の「イチからわかる！サミット塾」を実施しているところですが、今後さらに、外務省と県民会議共催で「サミット塾」を実施し、より多くの主体で国際理解・国際交流に向けた取組が図られるよう努めます。

また、上記「2（3）」の参加国紹介のパネルを行政機関や民間企業等に貸出し展示していただくことで、全県的な国際理解・国際交流の取組につなげ、おもてなし機運の醸成を図ります。

平成 28 年 2 月 2 日

開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させることで、世界各国からの来県者（主に報道関係者）をおもてなしの心で迎え支援を行うとともに、各地域の情報発信などを行う。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター内
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在地の市町・団体等）

- ・津駅、なぎさまち旅客ターミナル、松阪駅、伊勢市駅
近鉄宇治山田駅、鳥羽駅、近鉄鵜方駅等、メディア関係者が宿泊・取材等で利用する可能性の高い施設
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：伊勢志摩サミット東海会議）

- ・中部国際空港、名古屋駅
- ・現地への移動支援（名鉄・JR・近鉄間の乗換案内等）と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

- ①県民会議スタッフ、業務委託先スタッフ、外国語案内ボランティア
- ②運営主体のスタッフと外国語案内ボランティア
- ③運営主体のスタッフと県民会議スタッフ

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

- (1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。
- (2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し、各拠点に派遣する。
- (3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、外国語案内ボランティア以外のスタッフについても合同で研修を行う。

4 今後のスケジュール

平成 27 年 9 月 ～	各運営主体との設置・運営に係る調整
平成 28 年 2 月 ～ 4 月	ボランティア、スタッフ研修
平成 28 年 5 月 20 日 ～ 28 日（予定）	インフォメーション設置

平成28年2月2日
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、主に外国人報道関係者に対し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等の支援を行う。」

2 募集概要

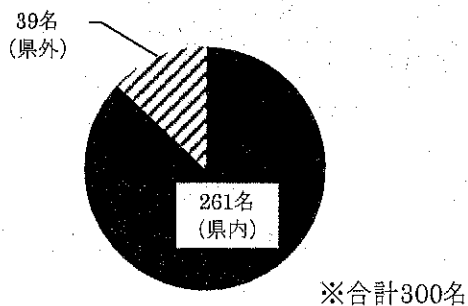
募集対象：英語による案内業務が可能な、県内外の一般、大学生、外国人留学生及び高校生等

募集期間：平成27年10月30日～12月10日

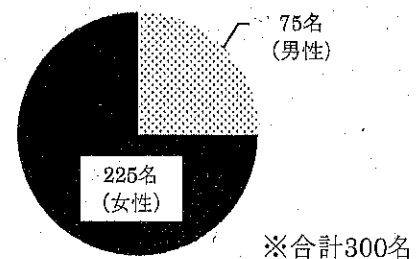
応募者数：1003人

採用者数：300人（当初予定200人程度）

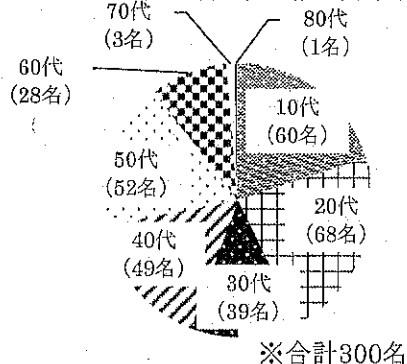
ボランティア採用者内訳（出身地別）



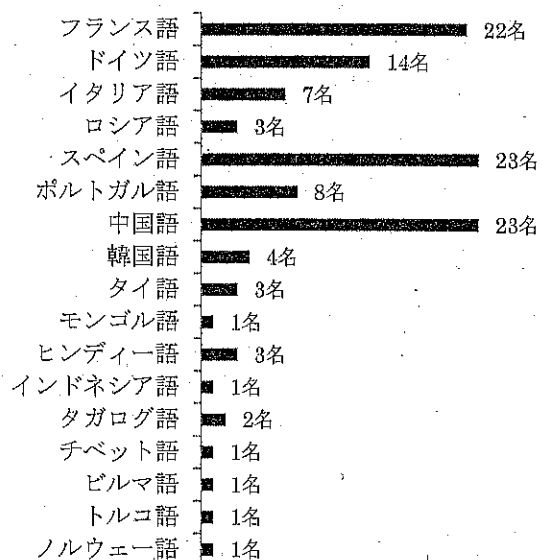
ボランティア採用者内訳（性別）



ボランティア採用者内訳（年代別）



英語に加え他言語にも対応可能な人材



3 活動内容

ボランティア参加者は、語学研修及び接遇研修の受講を必須とし、今後の活動を見据えたレベルアップを図ります。その後、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置されるインフォメーションセンター等において、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて主に外国人報道関係者を支援します。

参加機会の拡充のため、当初計画に加え名古屋駅での活動を実施するとともに、外国人報道関係者宿泊先ホテルなどでの活動も検討中です。

4 今後の方針

- (1) ボランティア参加者及び応募者が、以後、県内で開催されるMICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる仕組みづくりに取り組む。
- (2) インフォメーションセンター以外のサミット関連事業での外国語ボランティア派遣の要望についても対応する。(その際は採用者300人以外の者も派遣対象とする)
- (3) 企業単位でのボランティア協力申請をいただいた場合は活躍の機会を調整する。

※申請企業：日本トランスシティ(株)、㈱百五銀行、住友電装(株)

4 今後のスケジュール

2月14日、20日	第1回語学研修(鈴鹿、伊勢)
3月13日、26日	第2回語学研修(鈴鹿、伊勢)
4月15日、16日、17日	接遇研修(津、伊勢、鈴鹿)
5月15日	結団式(津)
5月20日～28日(予定)	インフォメーションセンター等での活動
6月11日	解散式(津)

平成28年2月2日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

開催支援課

第2回住民懇話会の開催について
～関係4市町の住民の皆様などを対象に実施～

三重県では、伊勢志摩サミットの成功に向けて、住民の皆様からの要望や意見を聞き取り、今後の事業方針に活用するとともに、警備関係機関と連携・協力して、サミット開催に伴う住民生活への影響についての理解と協力を求めるため、第2回住民懇話会を下記のとおり開催します。

1 開催日程

別表のとおり

2 内容

- (1) 伊勢志摩サミット三重県民会議事業の説明
- (2) 警備機関が実施する警備活動等の説明
- (3) 住民懇話会開催市町のサミットに関する取組等の説明
- (4) 質疑応答

3 実施者

- (1) 三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局（事務局）
- (2) 三重県警察本部警備部サミット対策課
- (3) 第四管区海上保安本部サミット等海上警備準備本部
- (4) 関係4市町（伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町）

4 対象

どなたでも御参加いただけます。（申込不要）

5 参考事項

今後、サミット開催直前の4月下旬から5月上旬に第3回を開催する予定です。

伊勢志摩サミット開催に係る「第2回住民懇話会」日程表

地区	伊勢市	鳥羽市	志摩市	南伊勢町
日付	2月13日(土)	2月28日(日)	下記、表のとおり (市内9会場)	2月7日(日)
時間	14:00～	14:00～		14:00～
場所	伊勢市 生涯学習センター いせトピア	鳥羽市民文化会館		南伊勢町町民文化会館
住所	伊勢市黒瀬町 562番地12	鳥羽市 鳥羽三丁目8番3号		南伊勢町 五ヶ所浦3917番地

志摩市内での実施について

日付	2月7日(日)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月11日(木)
時間	19:00～	19:00～	14:00～	19:00～
場所	志摩市浜島B & G 海洋センター	志摩市磯部 生涯学習センター	志摩市役所	志摩市役所
住所	志摩市浜島町 浜島3564番地4	志摩市磯部町 迫間878番地9	志摩市阿児町 鵜方3098番地22	志摩市阿児町 鵜方3098番地22

日付	2月13日(土)	2月15日(月)	2月21日(日)
時間	19:00～	19:00～	13:30～
場所	神明地区公民館	賢島パークホテル みち潮	志摩市間崎島 開発総合センター
住所	志摩市阿児町 神明6番地	志摩市阿児町 神明754番地9	志摩市志摩町 和具4236番地

日付	2月27日(土)	2月27日(土)
時間	14:00～	19:00～
場所	志摩市志摩文化会館	大王公民館
住所	志摩市志摩町 和具535番地	志摩市大王町 波切3902番地2

平成 28 年 2 月 2 日

開催支援課

各国首脳等と県民との交流について ～「世界との絆づくり」～

1 目的

来県される各国首脳等や配偶者による市町等訪問、地域住民との交流を通じて、地域の国際化や情報発信、学生や子ども達のサミットへの参加意識を高め、各国と地域の一層の関係強化につなげていく。

2 取組方針

(1) サミット参加各国等と県内市町及び県内高等教育機関とのつながり

県内市町及び県内高等教育機関（以下、「県内市町等」。）とサミット参加各国等とのこれまでのつながりや、未来に向けた関係強化の動きを生かした交流を実施する。

(2) 一層の関係強化、地域の伝統文化、特産品の発信

交流にあたっては、サミット参加各国等の歓迎等に加え、県内市町等とサミット参加各国等の一層の関係強化につながる内容とし、かつ、機会を捉えた地域の伝統文化、特産品の発信を実施する。

(3) 県と県内市町等との連携

交流プログラムの立案、調整、実施に際しては、県及び県民会議と県内市町等で連携して実施する。

3 事業の概要

伊勢志摩サミット開催前後に、各国首脳等や配偶者が県内市町等を訪問し、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業などのつながりを踏まえた、記念事業、伝統文化の紹介などの交流プログラムを実施する。

4 今後の進め方

各国首脳等や配偶者と県民との交流実現に向け、交流プログラム案を基に各国に対し働きかけを行っていく。

なお、交流プログラム案について、セキュリティ等の観点から内容等は非公表として進める。

